



6次産業化して農家レストランを始めたい

おおし かずゆき
大橋 一幸さん



小さいころから動植物が好きで、それに関わる仕事がしたいと思っていました。テレビなどで農業の後継者問題も取り上げられていたので、埼玉県農業大学校に進み基礎を学び、農業を始めました。以来10年近く経っています。

農業は決まったマニュアルが無く、隣り合った畑でも土によって育て方が違います。さまざまな野菜を作っていますが、栽培の仕方は、失敗しながら、地域の人たちや農業の先輩に聞いて学んできました。

農業はその道のりが長いことが魅力だと思っており、自分で立てた段取りどおりに作業が進んだときに一番達成感があります。将来は6次産業化して農家レストランを始め、みなさんに地元の野菜を地元でおいしく食べていただきたいと思います。



お客さんと共に楽しんでできる農業をしたい

うちだ すみお
内田 澄穂さん めぐみさん

不景気で仕事が減るなかで、自分の手に職を付けたいと感じ、いろいろ模索している中で、8年前に就農予備校を体験しました。それがすごくおもしろく感じ、農業を仕事にしたいと思うようになり、研修を受けて農業を始めました。減農薬の手法を用い、1年間で70〜80種ぐらいの野菜を



作っています。また、料理することを念頭に置いて、こういった品種を育てるかを考えたりもしています。

お客さんと私たち自身がお互い近い位置で楽しんでできる農業をと思っており、野菜のセットをお客さんに直接届ける方法で販売しています。イベントなどを企画し、お客さんに味噌作りや芋ほりなどの体験をしてもらったりもしています。

将来は農業の担い手の育成を進めたいです。これからの新規就農者の方たちのよい見本になれるよう頑張っていきたいです。





医食同源 食と農はとても大事

みちした としふみ ともみ
道下 肇郁さん 知美さん



もともと植物や果樹が好きで、趣味で始めたブルーベリー栽培でしたが、10年が経ち今では約60種を育てています。生食でも販売していますが、6次産業化して町内にある日本薬科大学の監修のもと、漢方の知恵を生かし、食材にもなる生薬を加えたジャムを開発しました。また、ジュースも作っています。

農業については土や風を感じられることや、アイデア次第で広がっていく可能性に魅力を感じています。

現代社会は食と農が大切にされていないと感じています。将来は薬剤師の資格を活かしつつ、漢方の医食同源という考え方を採り入れた体によい食品の開発や事業展開を考えています。また、農業で働きたいと思ってくれるような発信をしていきたいです。



日本薬科大学との打合せの様子



農業は生きることに直結した仕事

ないとう けいすけ
内藤 圭亮さん



大学では農業地理を専攻し、農家の経営実態を研究していました。有機農業の現状と発展をテーマに卒業論文を作成する中で、農家の実態を知ることになり、おもしろそう、自分もやってみたいと思い、有機農家さんのもとに住み込みで1年間の研修に参加し農業を始めました。農薬の使用を抑えた昔ながらの農法で露地物の野菜を約

100品種作っています。主なものは、トマトやナス、ズッキーニなどです。さいたま市にあるショッピングモールなどに出荷しています。

体を動かすことと食べることが好きな私にとって農業は魅力のある仕事です。生きることに直結した自然相手の仕事で手応えを感じることで、自分の生活が豊かになります。将来は加工場を造って6次産業化し、ピクルスやジュースなどの加工食品を販売していきたいです。



※6次産業とは…農林漁業者（1次産業）が食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組むこと。（「1」次産業×「2」次産業×「3」次産業＝「6」次産業）



新規就農者の方に対する支援

町では農業が直面する諸課題にきめ細やかに対応するために、農業関係の専門課であるアグリ推進課を本年4月に新たに設置しました。

新規就農者の方に対する支援としては、バラまつりでのPRおよび農産物販売ブースの設置や、毎週金曜日の夕方に役場庁舎前で元気夕方市（サンセットマーケット）を行っています。

高齢化の進展等による後継者不足や遊休農地の増加など本町の農業をとりまく状況に的確に対応するためにこれからも諸施策を実施し、伊奈町の農業を守り発展させていきます。